



新しい朝

令和2年5月11日(月)
府中市立府中第十中学校
学校だより No.2
校長 芹澤敏光

令和2年度 学校経営計画

校長 芹澤敏光

府中第十中学校の教育目標

将来の日本を担うにふさわしい底力のある人間性豊かな生徒を育てる。

そのために、本校が目指す生徒像を「よく学び よく考え 元気に 実践する生徒」とし、以下掲げる。

- ・基礎学力をしっかりと身に付ける。
- ・正しい判断力を養う。
- ・積極的に体力づくりをする。
- ・なにごとにも進んで実践する。

1 学校経営の柱

- (1) 学力の向上
- (2) 規律・規範意識の確立と継続
- (3) 利他心を柱とした人格の向上
- (4) 教職員が意欲をもって職務に精励できる環境

2 目指す学校像・生徒像・教職員像

(1) 学校像

- ① 「夢や希望を育むことができる学校」
- ② 「安心して、安全に生活できる学校」
- ③ 「生き生きと自己実現できる学校」
- ④ 「生徒にとって楽しい学校」

(2) 生徒像

- ① 「第十中学校の生徒であることを誇りに思える生徒」
- ② 「真面目さや正義を大切にできる生徒」
- ③ 「将来に大きな夢を描き、ひたむきに努力のできる生徒」
- ④ 「授業・学校行事・生徒会活動・部活動等に意欲的・積極的に取り組む生徒」
- ⑤ 「喜びや悲しみ・苦しみを友達と分かち合い、支え合える生徒」

(3) 教職員像

- ① 「高い人権意識をもち、人権教育を推進する教職員」
- ② 「保護者・地域・関連機関との連携を深める教職員」
- ③ 「真摯に研修に励み、子どもの教育に当たる教職員」

3 学校運営

(1) 学習指導

学校生活の中で、最も多くの時間を費やすのが授業である。そのために常に工夫と改善を行い、生徒が「分かった」と思える授業、「力が付いた」と実感できる授業を進める。

- ① 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)の提示
- ② 授業の終末での振り返り。
- ③ 言語活動(読む、書く、話し合う)の実施。
- ④ 反復(繰り返し)学習を継続的に取り組ませる。
- ⑤ 学習習慣の定着。
- ⑥ 授業アンケートを実施し、授業改善に活かす。

(2) 生活指導

学校から「いじめ」を根絶する。学級及び学年内の生徒の人間関係を的確に把握するとともに、全ての生徒にとって、居心地がよい「居場所」となるように調整を図る。

- ① 生活指導の共通理解を徹底する。
- ② 基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ③ 情報の共有化を図る。
- ④ 生活指導上の問題は、生活指導主幹に情報を集約する。(報告・連絡・相談)
- ⑤ 挨拶・礼儀・身なりを徹底して指導する。
- ⑥ 教育相談を重視し、生徒理解を深める。スクールカウンセラーとの連携を図り個々の状況を捉えた支援を推進する。
- ⑦ 生活指導は担任一人でやるのではない。学年・学校でチームとして、組織として行う。
- ⑧ 生徒の将来を考えた生活指導を行う。
- ⑨ 不要物等の持ち込みに対して、冷静でかつ毅然とした指導を行う。
- ⑩ SNSなどの正しい使い方を指導し、トラブルの未然防止に努める。
- ⑪ 保護者への情報提供や協力依頼は丁寧に行う。常に客観的に事実をとらえる。

(3) 進路指導

各学年の発達段階に応じた進路指導を展開し、自らの生き方を考え、夢や希望を抱き主体的に自らの進路を選択できるように意図的・計画的な指導の充実を図る。

- ① 「生き方」の指導の充実を図り、人としてどう生きるかを考えさせる。
- ② 進路指導計画に基づき、段階的に指導を行う。
- ③ 生徒の自己理解を深めさせるとともに、情報の提供、体験的な学習の実施により望ましい学習観、勤労観、職業観を養う。
- ④ 夢や希望を抱いて自らの進路を選択できるよう、個別指導の充実を図る。
進路指導を充実することにより、日々の学習への意欲が高まることを目指す。
- ⑤ 社会人として身に付けておくべき、接遇スキルを学ばせる。

(4) 特別活動

集団の一員として、互いに認め合い、励まし合い、助け合う望ましい集団生活の場を工夫し、生徒の自主的、実践的な態度を育成する。班活動や学級活動、生徒会活動のより一層の活性化を図る。

- ① 学級活動を基盤として、学習班・生活班を設定し、活動させる。また、学校行事、学年行事、生徒会活動、部活動など、生徒一人一人のもつ能力や個性を發揮させる場を設定し、生き生きとして活動ができるよう活動内容を充実させる
- ② 生徒会活動の活性化を図り、リーダーの育成を推進し、生徒の健全育成をはかる。
- ③ 師弟協働を率先し、できうる限り生徒と接する機会を持つようにし、生徒と教師、生徒と生徒が相互に心が通い合う温かい人間関係を築く。
- ④ 学校行事の中で、体育的行事及び文化的行事については、限られた準備期間で、できることを行う。
- ⑤ 修学旅行は、実施時期は一学期、行き先は京都・奈良とし、できるだけ保護者負担の軽減する努力をしていく。
- ⑥ ボランティア活動や地域行事への参加を通して生徒に地域社会の一員である自覚をもたせるとともに、地域から生徒が認め励まされ成長できるように支援する。

(5) 道徳

心の教育の充実を図り、生徒の正義や真面目さを大切にするとともに、人を思いやる心の育成を図る。

- ① 道徳科として授業を実施する。
- ② 適切な評価を行い、学校教育の信頼性を確保する。
- ③ 道徳科の全体計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を行う。
- ④ 道徳科の授業では、生徒に自分を見つめさせ、考えさせる時間とする。
- ⑤ 人間として、よりよい生き方を考えさせ、内省をせまる指導を行う。
- ⑥ 時季や行事を見据えた道徳科の授業を展開する。

(6) 総合的な学習の時間

- ① 「日本やふるさと府中の良さと伝統文化の継承」「生命尊重と安全なまちづくりや共生社会の実現」「自分の将来や職業に対する夢やキャリアプラン」をテーマとして、課題解決型学習を展開する。
- ② 生徒の主体的な活動を一層進めるため、図書館や市内の文化財、美術館などを活用し、また、ICTを活用することで情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表の仕方などを身に付けさせる。
- ③ 各教科や他の領域との関連を図りながら、自己の生き方について考えさせる指導を行う。

(7) 部活動

部活動は中学校教育にとって重要な教育活動である。職務として位置付けていく。全教職員で部活動の負担を分担していく。

- ① 部活動は、生徒の健全育成のためにある。
- ② 部活動は、勝利至上主義に陥らない。活動を通して生徒の人間教育を行う場とする。
- ③ 「ガイドライン」を遵守する。
- ④ 部活動のあり方について、教職員で共通理解を図る。

4 その他

(1) 開かれた学校づくり

学校は地域・保護者、PTAの理解と諸活動に支えられている。我々もPTAの活動に積極的に参加、協力していく。

- (2) 今年度の創立40周年記念行事を、教職員・生徒・保護者ともに地域とのつながり、支えを再認識する貴重な機会とする。

新型コロナウイルス感染症対策における「緊急事態宣言」の延長及び東京都知事の要請を受け、市内小中学校では臨時休業期間を **5月31日(日)まで延長**いたします。ご理解、ご協力をお願いいたします。

再び笑顔あふれる学校生活を過ごせる日々が一日も早く来ることを信じて再開に向けて今後も準備を進めてまいります。

